

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270101169
法人名	日本海観光株式会社
事業所名	グループホーム 敬愛苑
所在地 (電話番号)	松江市寺町198-57 ポートピア松江ビル4階 (電話) 0852-24-8768

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成19年12月16日

## 【情報提供票より】(19年11月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 25 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤	15 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 17.7 人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 / <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / <input type="radio"/> 改築
建物構造	RC 造り	
	4 階建て	4 階 ~ 4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	270 円
	月額	40,000 円または1日当たり		1,340 円

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科医院、四方歯科医院、松江市立病院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心部にあるビルの4階部分を利用したホームであり、同フロアの人工庭園を、併設するデイサービス等と取り囲むように建てられている。「人と人、心の和を大切に」という基本理念と、“生きがい・やすらぎ・支え合い・楽しみ・安心・ふれ合い”という標語を掲げ、日頃のケアの基礎としており、利用者の穏やかな表情からは落ち着いた生活が窺える。昔から催されている地元行事への参加を始め、ホームの行事への地元住民の招聘、地域の老人クラブや保育所との交流など、地域との交流に向けた取り組みは積極的に行なわれ、地域に根ざしたホーム作りが力が入れている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、改善課題はあげられていないものの、ホームとしてもより質の向上を目指し、取り組んでいる。より利用者本位のサービス提供を目指し、評価をホームの質の向上の指標として捉え、活用している面が確認できる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、これを基とし、さらにホームの質の向上に取り組もうとする姿勢が窺えた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者代表、家族代表をはじめ、地区社協会長、民生委員、包括支援センター職員など行政職員をメンバーとして、2ヶ月に1回定期的に開催している。また、このホームの事情を考慮し、行政職員に保護課職員も構成メンバーとしている特徴を持っている。会議では、ホームの運営状況をはじめ、課題の検討など、活発に議論され、この会議をホームの質の向上に向けた一つの糧として取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置をはじめ、家族の来訪時に時間を作るなど、より多くの意見を聴取しようとする取り組みがなされている。それら意見は、ホーム作りの重要なものとして捉え、職員会議等で協議し、運営に反映させようとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同フロアに併設する会議室を、自治会の会合場所として提供していることをはじめ、ホームを含めたイベント開催や、保育所との交流会参加など、地域との交流は積極的に実施している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設当初から、地域に根付くことに重点をおいた理念のもと、事業展開を行っている。 現在も、利用者家族だけでなく、地元老人クラブの来訪、地元地区集会への会議の場の提供など、地域密着したホームとしてのケア提供と、理念の構築が図られている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の掲示をはじめ、スタッフミーティングの際に再確認するなど、共有化に向けた取り組みが行われているとともに、理念の具現化に向けたケア提供体制が構築されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	天神祭、どう行列など地域で開催されるイベントへの参加を始め、ホームの行事への地元住民の招聘、地域の老人クラブや保育所との交流など、地域との交流に向けた取り組みは積極的に行なわれている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、より利用者本位のサービス提供を目指している。前回の外部評価で指摘事項はないものの、評価をホームの質の向上の指標として捉え、活用している面が確認できる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地区社協会長、民生委員、包括支援センター職員等をはじめ、ホームの事情により、市役所保護課職員もメンバーとして、定期的開催されている。ホームの現状を報告し、問題解決を図ろうとするなど、この会議を活かし、ホームの質の向上に向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当職員との連絡も密に行なわれ、気軽に相談できる体制ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時等を利用してケア方法の変更、日々の暮らしぶりなど個々に合わせ報告が行われており、加えて、毎月利用者個々の担当者が生活の様子を記載した(利用者個別の)ホーム便りが作成され渡されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や毎月のホーム便りの発行など、家族等が意見を出しやすい環境を作っている。また、来訪した家族と話す時間をできる限り設け、意見を反映させようとする取り組みも行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係の中でケアが提供されることの重要性を十分に理解し、できる限り職員が固定化するよう配慮し、ここ半年は、職員も固定しているものの、全般的に離職者も多く、利用者への影響がないとは言えない。	○	ホームの運営上、運営する事業者や運営者だけでなく、組織的な問題もあると思われる。グループホームに求められるものや有り様といったことを、親会社も含め再検討し、共有化することで、入居者への影響が及ばないよう配慮され、取り組まれることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	規程に「初任者研修」「継続研修」は明示され、様々な内容で事業所内研修が開催されている。運営者の研修参加に関しての理解もあり、外部への研修にはできる限り参加するよう配慮がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会への参加を始め、他事業所との交流会などを実施し、情報交換、勉強会の開催など、ホームの質の向上に向け、積極的に取り組んでいる。また、独自での事業者間ネットワーク構築も予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問や、併設のデイサービス利用など、利用者が徐々にホームに馴染めるよう取り組んでいる。また、退去の際にも、退去先で混乱を招かないよう、それまでの生活環境を維持できるよう連絡調整を図るマネジメント(対応)は評価に値する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「しすぎない介護」と「コミュニケーション」を基として、利用者それぞれの生活歴、趣味等の把握がなされ、個々の計画に沿って支援されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや望まれる生活を聴き、意向に添うように努めている。 本人の意向把握が困難な場合には、あくまで“利用者本位”に主眼を置き、日々の生活の中での利用者の言動等を観察することで、意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、を行い、場合によっては、その会議に本人や家族に参加してもらうなど、利用者本位の計画作成がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しが行われ、それぞれに合った計画の策定がなされている。 また、利用者の状態等に変化があった場合には、その都度見直しを行うなど、柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスの活用をはじめ、病院受診の付き添いなど、それぞれの状況に合わせ支援されている。本人、家族等の状況に応じて、事業所内での医療に関わる緊急対応や通院支援、買い物や外出支援、送迎等、必要な支援には柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし支援している。 主治医を変更しなければならない場合は、本人、家族と十分に協議がなされ、その意向に沿い決定されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについては、ホームとしても体制を整えており、本人、家族の意向に沿い対応している。また、検討会や勉強会を行い、職員間での方針の共有も行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りの尊重やプライバシーの確保に視点を置いたケア提供が心掛けられてはいるものの、調査当日、ケア結果を優先するあまり、プライバシーを損ねる声掛けが見受けられ、また、個人情報の取り扱いに関し留意されてはいるものの同意書が得られていない。	○	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための必須条件。個人情報の取り扱いについて同意を得るとともに、個人情報保護の徹底を図り、常にプライドを大切にケア提供を望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者それぞれのペースを尊重し、支援している。 調査当日も、庭園の散歩や卓球、ラウンジへ出かけるなど、入居者が思い思いに過ごしている姿を多く見ることができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの状況に合わせ、刻み食、ミキサー食等対応している。 また、食事準備や後片付けは利用者と職員が行い、食事も職員は利用者と同テーブルにつき、世間話などをしながらの食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や、1日おきなどそれぞれの希望に合わせて実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、入居者の得意なことを発表できる場を作り、役割、楽しみ事の支援を行っている。また、昔からの地域行事に参加したり、行事外出や園芸等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近くの神社等への散歩、墓参り等をはじめ、季節に応じた外出支援も実施されている。ホームの庭園や、同階にあるラウンジへの散歩など、自由に出入りすることができ、利用者が思い思いに過ごしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。 外出傾向が強い入居者に対しては、個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、年に2回の避難訓練を行うとともに、地域への協力依頼もなされており、事業所のあるビルが地域の一時避難場所にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の淀みもなく、テレビの音や日光など、利用者には不快感を与えないよう調節している。共有空間には使い込まれた品が置かれ生活感のある空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の継続性」と「入所前の風景の再現」を基本とし、居室には馴染みの品が置かれるなど、家庭的な雰囲気有しており、利用者それぞれに合った居室環境作りがなされている。		